

【専門科目領域/専門科目群/公衆衛生看護学】

科目名		ナンバリング		区分（必修・選択）	単位数	履修年次	開講学期等
公衆衛生看護活動展開論Ⅱ		NSP44__008		選択	2	4	前期
担当教員		研究室		電子メール ID		オフィスアワー	
須田 由紀 他		305		yuki.suda		水曜日 12:10～13:00	
授 業 の 目 的 ・ 概 要		複雑な地域社会の状況を理解し、対象となる人々の健康状態とその健康に影響する要因を詳細に分析し対策を立案する必要性について学ぶ。 公衆衛生看護活動展開論Ⅱでは、地域保健活動の展開の基本である地域アセスメント、健康問題・課題の抽出、地域保健活動計画、実施、評価という流れの公衆衛生看護過程の技術を身につける。また、地域のニーズに基づいたシステムの構築についての理解を深める。					
授 業 形 式 ・ 方 法		<div><div><input checked="" type="checkbox"/>対面授業 <input type="checkbox"/>遠隔授業（双方向型） <input type="checkbox"/>遠隔授業（自主学習）</div><div><input checked="" type="checkbox"/>講義 <input checked="" type="checkbox"/>演習 <input type="checkbox"/>実習 <input type="checkbox"/>実技</div><div><input type="checkbox"/>PBL <input type="checkbox"/>反転授業 <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/>その他（ ）</div></div>					
学 習 上 の 助 言		本科目は、今までに履修した公衆衛生看護学関連科目で得た学びを統合して学習するため、これまで履修した科目を十分復習したうえで臨むこと。					
教 科 書		・自分たちで創る現場を変える地域包括ケアシステム わがまちでも実現可能なレシピ / 編：竹端寛・伊藤健次・望月宗一郎ほか / ミネルヴァ書房 / 2015 ・これからの地域看護学 / 編：渡邊多恵子・関美雪・望月宗一郎ほか / 朝倉書店 / 2025					
参 考 書		クエスチョン・バンク 保健師国家試験問題解説 / 編:医療情報科学研究所 / 2026（4月発刊）					
外 部 教 材		なし					
学生が達成すべき行動目標							関連卒業認定・学位授与方針
①	公衆衛生看護過程の基本について理解でき、説明できる。						HSU(1)(2)、NS(1)
②	公衆衛生看護学実習の実習地域を中心とした公衆衛生看護過程を展開・実践できる。						HSU(3)(4)(5)、NS(2)(3)(4)
③	自主性・社会性を身につけるとともに公衆衛生看護学実習に向けて学習の準備ができる。						HSU(4)(5)、NS(5)
④	公衆衛生看護学実習の振り返りを通して公衆衛生看護過程をさらに深め、自己の見解を深めることができる。						HSU(6)、NS(2)(3)(4)(5)
授 業 計 画							
回	学習内容等			授業方法	学習課題・学習時間（時間）		
1	公衆衛生看護過程の基本について学修する。			講義・演習	教科書の該当箇所を読み、復習すること。		4
2	母子保健活動の背景・施策・実際について振り返りを行い、実習地域の母子に関する地域アセスメントを行う。			講義・演習	教科書の該当箇所を読み、復習すること。		4
3	実習地域の母子に関する地域アセスメントを行う中での不足点・疑問点を整理する。			講義・演習	教科書の該当箇所を読み、復習すること。		4
4	成人・高齢者保健活動の背景・施策・実際について振り返りを行い、実習地域の成人・高齢者に関する地域アセスメントを行う。			講義・演習	教科書の該当箇所を読み、予習・復習すること。		4
5	実習地域の成人・高齢者に関する地域アセスメントを行う中での不足点・疑問点を整理する。			講義・演習	教科書の該当箇所を読み、予習・復習すること。		4
6	これまでの学習から見えてきた実習地域の母子・成人・高齢者の健康問題・課題をライフコースとしてつなげ、整理する。			講義・演習	教科書の該当箇所を読み、予習・復習すること。		4
7	公衆衛生看護学実習の中で体験した母子・成人・高齢者保健活動における学びの共有を行う。			講義・演習	教科書の該当箇所を読み、予習・復習すること。		4
8	公衆衛生看護学実習によって得られた母子・成人・高齢者に関する情報を地域アセスメントに追加し、さらに深める。			講義・演習	教科書の該当箇所を読み、予習・復習すること。		4
9	公衆衛生看護学実習によって得られた母子・成人・高齢者に関する情報を地域アセスメントに追加し、さらに深める。			講義・演習	教科書の該当箇所を読み、予習・復習すること。		4
10	公衆衛生看護学実習によって深められた地域アセスメントから健康問題・課題を明確にする。			講義・演習	教科書の該当箇所を読み、予習・復習すること。		4
11	公衆衛生看護学実習によって深められた地域アセスメントから健康問題・課題を明確にする。			講義・演習	教科書の該当箇所を読み、予習・復習すること。		4
12	母子・成人・高齢者保健において明確になった健康問題・課題を関連図に落とし込み、ライフコースアプローチの必要性について考察する。			講義・演習	教科書の該当箇所を読み、予習・復習すること。		4
13	母子・成人・高齢者保健において明確になった健康問題・課題を関連図に落とし込み、ライフコースアプローチの必要性について考察する。			講義・演習	教科書の該当箇所を読み、予習・復習すること。		4

【専門科目領域/専門科目群/公衆衛生看護学】

14	実習地域の公衆衛生看護過程の成果発表会		講義・演習	教科書の該当箇所を読み、予習・復習すること。	4		
15	本科目に関連した保健師国家試験に向けた知識の確認を行う。		講義・演習	これまでの学習課題を振り返り内省する。	4		
試	試験・課題レポートの記述（講義最終日に提示するテーマに沿って記載し、期日迄に提出する）						
達成度評価							
総合評価割合（％）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	30	15	0	55	100
総合力指標	知識・技術力	0	5	0	0	5	10
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	10	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	10	10
	発表・表現伝達する力	0	0	15	0	0	15
	コミュニケーション力	0	0	0	0	10	10
	取組みの姿勢・意欲	0	5	0	0	10	15
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	10	20
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
レポート	①	✓	演習・実習での学びを統合した上で導き出した保健師としての自己の見解について、レポートを用いて評価する。			レポートを添削したものを返却しフィードバックしていく。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
成果発表	①	✓	演習の中で行った成果を発表する際のプロセスと、発表内容などを総合的に評価する。			授業時間内でフィードバックしていく。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
その他	①	✓	演習に積極的に取り組み、課題に適切に対応できる社会人基礎力を養うため、他者の発言をよく聞き積極的に発言すること。毎回の発言回数及び発言内容を評価する。また、授業の出欠席も評価する。			授業時間内でフィードバックしていく。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
備 考							
他 担 当 教 員		望月 宗一郎					
教 員 の 実 務 経 験		行政保健師としての勤務経験を有する。					
実践的授業の内容		担当教員の自治体での勤務経験を活かし、現場における具体的な事例を交えながら講義を進める。					
そ の 他		講義には特別な理由がない限り毎回出席し、積極的な態度で授業に臨むことを重んじる。 学生の理解度に応じ、講義・演習の速度や順番を調整する可能性がある。 大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。					